

令和7年度の重点 「チーム明星で 未来輝く星の子に 最善のまなびを！」

# 翔けよ 星の子

かけよ ほしのこ

星かがやき花かおり、歌なれる学校

令和7年12月23日発行 明星小学校学校だより NO. 16 文責 校長

## 星の子の学び

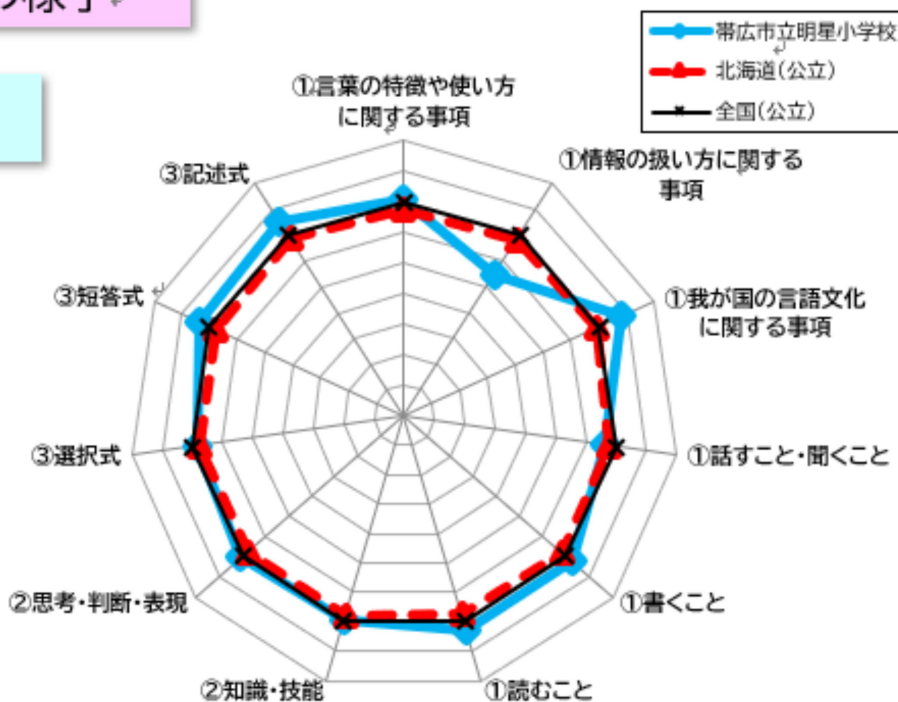
～令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果から～

令和7年4月17日に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果をまとめたものです。今年度は、「国語」「算数」「理科」「児童質問紙」の調査が実施されました。国語、算数、理科では、知識・技能に関する問題と活用する力をみる問題が出題されました。児童質問紙では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問に答えました。

### 教科の様子

#### 国語

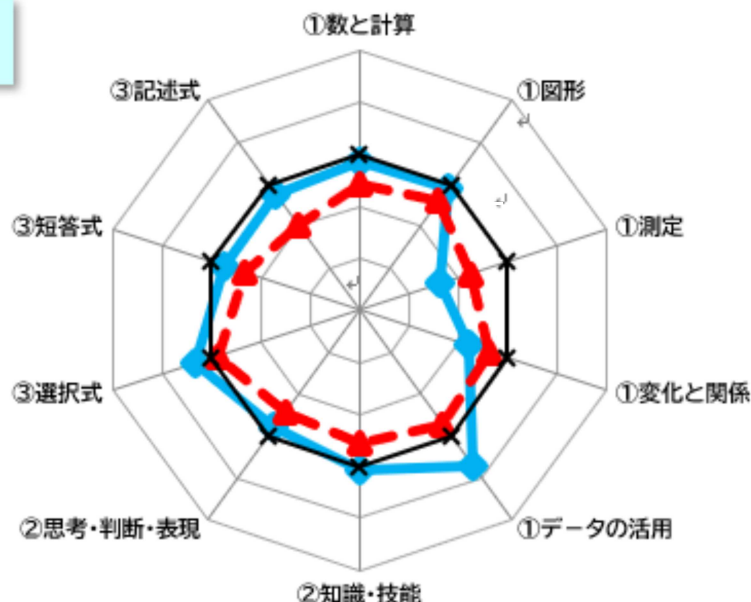
☆レーダーチャートの方…全国平均正答率を100として、比較しています。..



◎国語科では、「我が国の言語文化に関する事項」において全国の平均正答率を大きく上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも全国の平均正答率を上回っています。また、「書くこと」、「読むこと」の分野において全国平均正答率を上回っています。特に、自分の考えを条件に沿った文章に表して答える「記述式」の問題で全国の平均正答率を上回っています。評価の観点別では、「思考・判断・表現」で全国平均正答率を上回っています。

●国語科では「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるか」(話すこと・聞くこと)の問題と「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか」(情報の扱い方に関する事項)の問題が全国・全道の平均正答率を大きく下回っていました。このことから、学校全体でも「情報の取捨選択」そして「得た情報をどのように活用し、相手に伝えるか」について考え、低学年のうちから学習の中でさらに高めていく必要があると考えます。

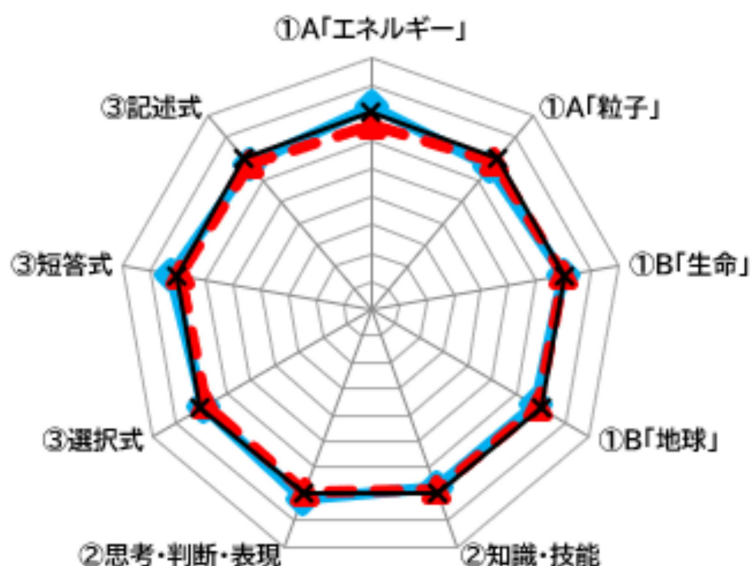
## 算数



◎算数科では、「データの活用」の分野において全国平均正答率を上回っています。また、「数と計算」・「図形」分野でほぼ全国並の正答率となっています。出題された問題に対し、答えの求め方や答えを導き出したわけを書く「記述式」の問題の正答率も全国並の結果となりました。また、評価の観点別では、「知識・技能」において全国平均正答率を上回っています。

●算数科では「特殊な図形（五角形）の面積を基本図形に分割して面積を求める方法を式や言葉を用いて記述できるか」（図形）の問題と「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを現すことができるかどうか」（変化と関係）の問題が全国・全道の平均正答率を大きく下回っていました。どちらも「思考・判断・表現」に関する問題で「何故そのように考えることができるのか。」を説明する力が弱いと考えられます。このことから、学校全体でも「何故そう考えられるのか。」「解決する為にはどうすれば良いのか。」について「自ら考え、解決へ向かう力」、さらに考えたことを「言語化する力」を低学年のうちから高めていく必要があると考えます。

## 理科



◎理科では、「エネルギーを柱とする領域」において全国平均正答率を上回っています。用語などを正式な名称で記述する「短答式」で全国平均正答率を上回りました。評価の観点別では、「思考・判断・表現」において全国平均正答率を上回っています。

●理科では「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解しているかどうか」（粒子・地球）の問題と「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうか」（地球）の問題が全国・全道の平均正答率を大きく下回っていました。どちらも「知識・技能」に関する問題であり、ただ「覚える」だけではなく「概念的に理解しているか」が求められます。理科に限らず「知識・技能の習得」に関して、「理解」を伴う授業形態が必要であると考えます。